

令和 2 年 7 月豪雨災害やコロナ禍を経て、新たなまちづくりの取組を



令和 2 年 7 月豪雨と
まちづくり

問 今後のまちづくりでは、今回の記録的な豪雨を考慮するか。

答 令和 2 年 7 月豪雨災害検証委員会の提言も踏まえながら、将来を見据えた本市のまちづくりにつながる事業とともに、災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくりに重点的に取り組み、市民生活の再建に向けて、早期の復旧・復興に全力を挙げていきたい。

問 新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中での避難所運営の対策や課題は。

答 避難所となる全ての施設において、避難スペースや移動動線を再点検し、受付時には手指の消毒やマスクの着用、検温を行うことにした。また、避難者同士の接触を極力避けるため、段ボール製のベッドや間仕切りを新たに導入した。

さらに、従来の避難所開設マニュアルに加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにマニュアルを作成し、避難所従事職員全員を対象に研修を行った。

しかし、今回の豪雨災害では、これまでの避難実績を大きく上回る方が避難された中、新型コロナウイルス対策への対応も加わった

ことから、これまで以上の避難所の体制が必要であると考えている。

問 新型コロナウイルスや災害が影響し、今後のまちづくりの計画に変更等が生じるか。

答 将来を見据えた本市のまちづくりにつながる事業とともに、災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくり及び新型コロナウイルス感染症対策と地域経済の活性化を重点的に取り組んでいくことを基本として、選択と集中の考え方の下、計画をしている大規模な建設事業についても、今後の財政状況を十分に見極めながら進めていく必要がある。

再発言 復旧や被災者支援等、あえて優先順位をつけ、計画の変更も視野に入れるべき。

問 ハザードマップは内水氾濫の水害には対応していないが、今回の災害を踏まえて、何か発行する予定はあるか。

答 内水氾濫が起きた今回の豪雨災害を踏まえ、当日の状況を消防団などへ十分な聞き取りを行い、家屋調査の実績なども精査し、実際の浸水状況に基づいて新たなマップの作成を検討したい。

新型コロナウイルス感染症
拡大の影響

問 新型コロナウイルスに感染した人などへの差別や誹謗中傷が全国で問題となっているが、本市の対応と取組は。

答 市のホームページ、愛称ねっと、広報おおむたなどを通して、市民に対し、不確かな情報を拡散したり差別や偏見等に同調することなく、国や自治体が提供する正しい情報に基づき、人権に配慮した行動をお願いしている。

また、市長メッセージ等でも、人権への配慮を訴えてきた。

今後も引き続き様々な機会を通して、人権を尊重し、共に生きる社会の実現に向けた啓発に努めていきたい。



問 新型コロナの影響で、体を動かさない不活発の生活が続き、*フレイルが進んだ場合の本市の対策は。

答 8 月から本市では、フレイル予防のリーフレットを新たに作成して配布するなど、高齢者に対し広く PR を行っている。さらに、居宅などでも運動ができるように、よかば〜い体操の動画と解説書を、帝京大学と協同して製作中であり、この動画も配布の予定。

*フレイル…加齢に伴い心身の活力が低下した虚弱の状態。